



国際学部

国際コミュニケーション学科

introduction!!

2026年4月開設

国際学部での学び

多文化共生社会に必要な
チカラを身につける

- ✓ 3領域の分野横断的な学びで
多文化への理解を深める
- ✓ 地域の多文化共生の推進や地域課題
および地球規模の課題解決に貢献
- ✓ 「多文化共生コーディネーター」の養成

英語＋その他の言語＋
コミュニケーションに関する科目

- ✓ 英語は習熟度別に少人数制で学ぶ
- ✓ 中国語・ロシア語・韓国語・
やさしい日本語・日本手話も学べる
- ✓ 英語＋その他の言語と必修の留学、
コミュニケーションに関する複数の科目

1年次

国際コミュニケーションの基礎

- ・ 習熟度別クラスによる英語教育
- ・ 英語科目／その他諸言語科目
- ・ 情報科目
- ・ 共通専門科目

2年次

留学＋専門教育科目（基礎）

- ・ 3つの専門領域
英語学・文学領域（Ⅰ類）
多文化理解領域（Ⅱ類）
国際社会領域（Ⅲ類）
- ・ 全員が英語圏（アイルランド・オーストラリア
※順次拡大予定）に留学

3～4年次

専門教育科目（応用）＋実践

- ・ 専門演習（ゼミ）
（4年次には卒業論文を作成）
- ・ 海外探究型実践プログラム
- ・ 多文化共生コーディネーター
養成プログラム

「英語」の中学校・高等学校教諭一種免許状が取得可能!!

地域社会の国際化やグローバル社会の持続可能な発展に貢献できる人材を養成

想定される進路

英語教員、観光業、運輸・航空業界、金融業、製造業、国際交流協会、NPO職員、自治体職員、国家公務員、大学院進学等



授業pick up!

【英米文学概論】

イギリスとアメリカの著名な作品や特色ある作品を取り上げ、英語の様々な表現を学びます。作品が与えた影響や意義などを検討しながら、作品への評価について学びます。

【比較文学】

日本文学と他国の文学を照らし合わせながら、各作品に表れる文化的背景や表現の差異・共通性を考察し、文学の多文化性についての理解を養います。



【English Presentation】

日本人を相手としたプレゼンテーションとは異なる、国際的な聴衆に適したプレゼンテーションのスタイルについて、実践を繰り返しながら学びます。

【英語学概論】

音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、英語史及び国際語としての英語の実態等の重要な英語学分野を幅広く紹介し、その本質について討論し理解を深めます。



【英語音声学】

音声の構造について、デイビッド・クリスタルの著書『*The English Language*』からの引用を読みながら、英語教育に関わる諸項目を取り上げ深く学びます。

【文化人類学】

現地調査を通じて文化という観点から社会を理解することを目指します。日本だけではなく、他の国や地域を対象にして自分たちの「当たり前」を見つめ直すことを目標にします。

【英国森林文化論】

森林文化論で扱われる内容は多岐にわたることを念頭に置きながら、英国人と森との関わりを歴史的に考察し、人間と森との共生について考えます。

【移民・難民論】

国境を越える人の移動の拡大が続いている認識を基点に、人間の移動の多様な実態について確認します。日本社会が移民や難民をどのように受け入れてきたか／来なかったか解説します。

【グローバル社会と経済】

貧困と環境、外部性、環境政策、コモンズ、地球温暖化と食料生産、途上国の農業開発など、グローバル社会の問題として食料、環境、資源問題をケーススタディーとともに議論します。

海外探究型実践プログラム

【国際ボランティア】

フィリピンの経済状況や社会問題を事前学習で学び、5日間の国際ボランティア活動を体験します。海外の現場を直接体験し、問題の理解や解決に向けて、実践的に行動します。



【国際会議への参加】

グローバルな課題についてテーマを事前学習したうえで、英語による国際会議に参加します。多様な参加者が交流する会議中の議論を踏まえて、帰国後にさらにディスカッションを行い、その後の学びにつなげます。



サルク SALC(言語自主学習センター)

学内に新設するSALCでは、英語の発音に関する自主学習スペースや英語の副読本を設置し、授業以外での自主的な学びをサポートします。グループワーク（ディスカッション）スペースやカフェスペースも設け、「English Café」や「TOEIC対策講座」などのイベント実施を企画しています。

Campus Life

講義・ディスカッションルーム

学修支援デスク

多読コーナー

教員研究室

個別学習スペース

リラクゼーション
カフェゾーン

学修支援・
資料コーナー

